



担当教員が講義の一部を披露したイベント
＝浜松市中区の静岡文化芸術大

観光教育の講義披露

静岡文化
芸術大 県立大と交流イベント

浜松市中区の静岡文化芸術大で12日、同大と県立大(静岡市駿河区)が4月から観光教育のプログラムを始め、担当教員が講義の一部を披露した。両大学の担当教員が講義の一部を披露した。

浜松市中区の静岡文化芸術大で12日、同大と県立大(静岡市駿河区)が4月から観光教育のプログラムを始め、担当教員が講義の一部を披露した。両大学の担当教員が講義の一部を披露した。

静岡文化芸術大の石本東生教授はすでに開講している「文明と観光」の第8回として、ギリシャの過疎集落が観光によって再生した事例を紹介。法律で伝統的な石造り建築での新改築を義務つけたことにより景観が統一され、「街並みは長い目で見ると重要な観光資源」と説明した。県立大の北上真一特任教授は国内外の観光産

業の現状を解説。静岡文化芸術大の1年生や一般参加者が聞き入った。講義の前には静岡文化芸術大の横山俊夫学長と県立大の鬼頭宏学長が観光教育への思いをそれぞれ語った。イベントは4日に県立大でも行った。(浜松総局・市川淳一朗)